

自己評価報告書(最終報告)

報告者

臨床心理士養成コース／葛
西 真記子

■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが（平成24年8月28日）、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

1. 目標・計画

①授業内容

より学校現場の実践に則した内容を行い、臨床心理学の知見を具体的に教育で活かせる教員を養成する。

②授業方法

講義形式の知識提供だけでなく、演習形式で自己の体験にもとづいた知識になるよう授業は少人数、体験型で行う。

③成績評価

自己評価・他者評価の観点を導入する。

2. 点検・評価

①授業内容：後期の学部生の授業において、特に、「学校現場で用いる場合」という視点を取り入れ、それに関する討議も行った。

②授業方法：演習の授業においては、できるだけ小グループに分け、お互いにフィードバックする時間を設けたり、授業時間以外での学習ができるように促した。

③成績評価：自己評価は、行うことができた。他者評価に関しては、お互いにフィードバックをするという形で導入した。それをそのまま成績評価には反映しなかった。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

1. 目標・計画

- ①「子ども理解と生徒指導」において本コース以外院生も多数受講する講義であるので、臨床心理士を目指す者以外への臨床心理学の知を伝え、子ども理解の実践へつなげることを目的とし、学校現場で理解しやすい用語を用いて行う。
- ②2名の学部生の指導について、教師として臨床心理学の知を実践する方法を卒業論文という形にする。
- ③10名の修士課程の学生の指導について、全国的な学会での発表が行えるレベルのものにする。
- ④2名の博士課程の学生の指導について、論文投稿と、調査の実施を行う。

2. 点検・評価

①は中間報告済み

- ②2名の学部学生の卒業論文では、学校現場の問題に取り組み、教員採用後にも自らの知となったと思われる。両名とも学校教員になっている。
- ③修士課程の学生は、修士論文を投稿するようにまとめている者が2名、全国レベルの学会で発表予定の者1名、アメリカ心理学会での発表が決定しているもの1名がいる。
- ④博士課程の学生は、1名は博士論文を執筆し、学位を取得することができた。3名ともアメリカで行われた学会で発表をした。

Ⅱ－2. 研究

1. 目標・計画

1. 目標・計画

- ①Sexual Minorityの支援に関する研究では、25年度には、徳島県内の地域支援の拠点となるよう情報提供と擁護活動を行う。
- ②PQSを用いたカウンセリングのやりとりに関する実証的研究をプラクティカムの学生を対象に行う。昨年度に引き続き、研究を行い、学会発表を行う。

2. 点検・評価

- ①Sexual Minorityの支援に関する研究では、高知県、滋賀県、大阪府においても講演、ワークショップを行った。また、スクールカウンセラーの研修会においても情報提供を行った。共著で執筆も行った。
- ②PQSを用いたカウンセリングのやりとりに関する実証的研究は、平成26年の心理臨床学会で発表予定である。論文にまとめている。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

1. 目標・計画

予防教育科学センターの兼任教員として、大学の中期目標である予防教育のさらなる実践を目指して、県内、県外の小・中学校との連携をはかる。

25年度は本コースの定員確保、臨床心理士の合格率上昇などに努める。

修了生の就職率、就職先も入学希望者に影響があると思われるので、積極的に就職支援を行う。

連合大学院の副講座代表としてコース内の教員の資格取得を支援する。

2. 点検・評価

26年度の本コースの定員確保のため大正大学において大学院の説明会を開催した。

修了生との連携を研究会等ではかり、就職支援、修了後の指導も行った。

連合大学院の副講座代表として、コース内の教員の合資格取得を支援した。

Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

1. 目標・計画

徳島県教育委員会と連携し、徳島県のスクールカウンセラーとして派遣される。

徳島県医療福祉審議会委員として務める。

徳島県不登校対策プロジェクトのチームリーダーとして徳島県内の不登校対策にあたる。

その他、各種地域の家庭教育支援や人権教育に関する委員を行っているので、その中で地域への貢献をおこなう。

2. 点検・評価

徳島県のスクールカウンセラーとして鳴門市の小中学校に派遣され、連携を図った。

徳島県医療福祉審議会委員を務めた。

徳島県不登校対策プロジェクトチームリーダーとして不登校対応ハンドブック、いじめ対応リーフレットを作成し、県内学校に配布した。

その他の各種地域の家庭教育支援、人権教育に関する委員も務めてた。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)